

□教科	歴史			
□授業時数	4時間／週			
□教材	中学生の歴史(帝国書院), シリウス21(育伸社), 改訂グラフィックワイド歴史(とうほう), スタディサプリ(該当項目参照)			
□学習到達目標	歴史の学習は過去の人々の生き方や出来事を通して、未来をより良い社会にしていこうためにはどうしたら良いかを考えていくものである。そのためには、登場人物や出来事を暗記するだけではなく「なぜそうなるのか？」を考えなければいけない。過去の人々が経験したことや行動したことを通して、将来の自分がどうあるべきかや社会の理想的な姿は何かといったことを自分で考えられるようにする。			
□成績評価基準	定期テストの平均点(年間5回実施)とおよび平常点により評価する。平常点は、授業態度・課題提出状況・ノート作成状況などを対象となるため、積極的な授業参加を期待する。			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4月	第2章 古代国家の成立と東アジア 第1節 人類の登場から文明の発生へ 4 ギリシャとローマの政治と文明 5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生 第2章 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり 1 各地で生まれる武士団 2 朝廷と結びつく武士	歴史は過去の事象を暗記するのではなく、どういった背景で事象が生じて、それによってどんな影響が出たかを理解させる必要があることを理解する。その際、1・2学期で扱った地理を歴史にも活かし、地理的要因を踏まえながら理解する。 中国の影響を受けた都の建築方法や制度、文化が広まった時代であることを理解する。 荘園の影響で徐々に力をつけていった貴族が権力を握り、藤原氏による摂関政治へとつながっていく過程を理解する。加えて、藤原氏をはじめとした貴族の護衛としてついていたのがいわゆる武士であり、朝廷とも結びつくことで力をつけていく流れを理解する。	
	5月	第2章 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり 3 鎌倉を中心とした武家政権 4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 第2章 武家政権の成長と東アジア 第2節 武家政権の内と外 1 海を越えて迫る元軍 2 南北朝の内乱と新たな幕府 3 東アジアの交易と倭寇 4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易	それまでは天皇が中心となって行ってきた政治が、この時代に初めて武士が政権を担当するようになり、幕府が開かれた。その最初の地が鎌倉であったが、なぜ鎌倉に幕府を置いたのかを理解させる。 また、新王朝の成立や交易によって東アジア情勢が大きく変貌していくことを理解する。	定期テスト①
	6月	第2章 武家政権の成長と東アジア 第3節 人々の結びつきが強まる社会 1 技術の発達とさまざまな職業 2 団結して自立する民衆 3 全国に広がる下剋上 4 庶民に広がる室町文化 第3章 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結びつく世界 1 ヨーロッパの変革 2 大航海時代の幕開け 3 東アジアの貿易と南蛮人	農業技術の発達によって農民も効率よく農作業ができるようになったため、大名の統治に反発をする集団が各地に現れた。この反発によって各地で下剋上が起き、日本にも戦国時代がはじまったことを理解する。 また、ヨーロッパでは香辛料を求めて大航海時代が始まり、新航路の開拓や新大陸の発見へとつながり、その影響が日本にもやってくることを理解する。	
	7月			定期テスト②
	9月	第3章 武家政権の展開と世界の動き 第2節 戦乱から全国統一へ 1 信長・秀吉による全国統一 2 秀吉が導いた近世社会 3 戦国大名と豪商が担った桃山文化 第3節 武士による全国支配の完成 1 幕藩体制の始まり 2 朱印船貿易から貿易統制へ 3 四つに絞られた貿易の窓口 4 琉球王国とアイヌの人々への支配	ヨーロッパから入ってきた鉄砲を実戦で使用するによって、大名による全国統一を目指す争いが激化していった。その中で豊臣秀吉が天下を治め、のちの江戸時代に続く政策や平和外交を展開していく流れを理解する。 関ヶ原の戦いを経て、徳川家康が幕府を開くと各藩を統治する幕藩体制が整えられ、この先260年続く江戸幕府の体制が整えられていく過程を理解する。対外関係は織豊政権から続く平和外交を続けていたが、キリスト教に対する取り締まりが加速していくと貿易国や場所が制限されていった。この時に完全に鎖国していたわけではなく、一部では貿易を継続していたことを理解する。	

□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	10月	第3章 武家政権の展開と世界の動き 第4節 天下泰平の世の中 1 身分制の下での暮らし 2 安定する社会と諸産業の発達 3 各地を結ぶ陸の道・海の道 4 上方で栄えた町人の元禄文化 第5節 社会の変化と幕府の対策 1 貨幣経済の広まり 2 繰り返される要求と改革 3 江戸の庶民がになった化政文化	平和な世の中が続くようになると武士階級では儒学や国学などの学問が広まり、のちの幕末の思想家などを生み出す下地が作られた。商人の生活は、廻船の発達などにより大坂や酒田を中心に日本中の特産物が全国に広まり、生活が豊かになった。一方で、農民は各藩で定められた年貢に苦しむ人が出てきて、藩や幕府に直接訴える人も出てくるなど、身分によって生活の差が出てきたことを理解する。	定期テスト③ 錬成テスト①
	11月	第4章 近代国家の歩みと国際社会 第1節 欧米諸国における「近代化」 1 市民革命の始まり 2 人権思想からフランス革命へ 3 産業革命と資本主義の成立 4 欧米諸国の近代国家建設 5 世界進出を目指す欧米諸国 第2節 開国と幕府の終わり 1 日本を取り巻く世界情勢の変化 2 諸藩の改革と幕府の衰退 3 黒船来航の衝撃と開国 4 江戸幕府の滅亡	近代の政治体制の基盤ができた時代であることを認識する。共和制や立憲君主制など、国によって異なる政治体制がとられていき、やがて国内で政治体制に関する議論が自熱していくことを理解する。また、欧米列強の進出が加速していくことで、鎖国下の日本を取り巻く環境も変化していったことを理解する。具体例としてペリーやハリスが日本にやってきて開国を求めたことにより、鎖国体制が崩壊し、国内でも開国派と攘夷派に分断されていく過程を理解する。	
	12月		2学期の総復習	定期テスト④
	1月	第4章 近代国家の歩みと国際社会 第3節 明治政府による「近代化」の始まり 1 新政府による改革 2 富国強兵を目指して 3 文明開化と新政府の政策 第4節 近代国家への歩み 1 新たな外交と国境の画定 2 沖縄・北海道と「近代化」の波 3 自由と民権を求めて 4 帝国憲法の成果と課題	それまで鎖国体制に置かれていた日本が260年ぶりに開国した。その間に世界では列強が世界進出したり、産業革命が起こるなど情勢が大きく変わっていたため、日本も追いつくべく海外に使節団を送るなど、近代化を進めていった。中でも特に力を入れたのが憲法である。伊藤博文を中心としてヨーロッパに憲法調査へ派遣し、憲法理論と国会開設の準備を進めていったことを理解させる。	錬成テスト②
	2月	第4章 近代国家の歩みと国際社会 第5節 帝国主義と日本 1 アジアの列強を目指して 2 朝鮮をめぐる対立日清戦争 3 世界が目撃した日露戦争 4 塗り替えられたアジアの地図 第6節 アジアの強国の光と影 1 近代日本を支えた糸と鉄 2 変わる都市と農村 3 欧米の影響を受けた近代文化	日本は国内の諸制度を整えていったことで、開国から数十年で急発展をしていった。欧米列強と肩を並べる力を目指していた日本は、朝鮮半島にも進出していく。その中で東アジア最大の強国である清と対立し、甲午農民戦争をきっかけに日清戦争が勃発する。さらに南下政策を行っていたロシアが満州に進出したことにより日露戦争も起こり、アジアの勢力図が変化していくことを理解する。 一方で、日本国内は紡績業が盛んに行われ、日清戦争ごろには綿糸の輸出量が輸入量を上回った。さらに賠償金を元手に重工業も発達し、賃金労働者が増加したことを理解する。	
	3月			定期テスト⑤